

WVA!



No. 19



「私を支えてくださるもの」

昨年度のカープは、面白いシーズンを見せてくれました。広島県内外でカープの話が溢れていました。カープ女子という言葉も、新しい言葉としてよく耳にするようになってきました。こんなに広島がカープで盛り上がるようになるには私は思っていませんでした。私はカープの優勝を見たことはありません。ですから、優勝争いをしていただくことで毎日カープの勝敗で一喜一憂していました。

ところで、プロ野球選手は、プレーによってファンから称賛されたり、野次られたりしますが、人に勇気や希望を与える事の出来る存在だと私は思います。あるテレビ番組で野球をしている少年の話がありました。突如、原因不明の病になり家族も本人もこの先どうしていいかわからない、野球をこのまま続けられなくなる。そう思っていたところにテレビで同じ病気を抱えたプロ野球選手がいたことがわかった。少年はその選手に憧れ、そんな選手になりたいと願い、病気と闘う決意をする。少年のことを伝えていた番組がそのプロ野球選手と少年を会わせてあげるといっけいをしていました。二人は会ってキャッチボールをして将来プロの世界で戦おうと約束していました。

その話には感動しました。好きなことが出来なくなるかもしれない…そんな状況から希望を見つけて頑張っている少年の姿を見て思ったことがあります。人は突然、穏やかに過ごしてきた日常が一日にして変わってしまうことがあります。私の周りにも、たくさんの方がいますが、み教えを支えに歩んでいきたいと思いましたが、そんなときに何か希望となれるもの、支えとなれるものが必要であると。私たち僧侶もたくさんの方の希望になれるよう頑張っていかなければいけないと思いました。



まとめには、子どもの時の経験や学習は、色々なことをすれば、それだけ身に付いてゆくことを話されました。それだけに子ども達への接し方や言葉かけの重要性を感じさせられます。やはり大切なのは褒めることだそうです。上手くできなくても、やる気があれば褒めてあげること、失敗してもポジティブに考えさせてあげることです。

山出先生の優しい言葉遣いが、子どもとの対話の見本となり、私たちはしっかりと学ぶことができ、やる気にさせられました。教育とは褒めることだと本当に思いました。



中野正之先生

2日目の研修は、東急ハンズ木工房担当スタッフの中野正之先生に「よく飛ぶ紙飛行機を作ろう！」という講題で研修を受けました。

子どもに教える時の方法も学びながら、「イカ飛行機」「スカイキング」という2種類の紙飛行機を折りました。どちらも先生が事前に折り目を付けた紙で、折り方を学んだ後、真新しい紙を使い自分自身で折って作ることを学びました。実際に飛ばしてみると、ちょっとしたバランスの崩れで、上手く飛ばなくなることを知りました。しかし、羽根を少し上下に調整すると、驚くほどよく飛びました。

特に「スカイキング」は名前の通りよく飛びました。この「スカイキング」という紙飛行機は、滞空時間のギネス記録を持っているそうです。帰って外で飛ばしてみましたら、風に乗ってどこまでも飛んで行きます。危うく隣の家の屋根に引っかかりそうでした。「スカイキング」おすすめです。

中野先生は分かりやすく飛行機の折り方を教えるために、あらかじめ参加者全員分の紙に折り目を付けてくださっていました。大変ご苦労くださりまして感謝しております。このような事前準備が大切なのだと改めて感じました。しっかりと日曜学校の生徒にも教えてあげようと思います。

この度の「中・四国ブロック少年連盟 指導者研修会」は、実技指導が存分にあり、子ども達に教えてあげやすく、良かったと思いました。

来年は山口教区担当で開催となりますので是非とも参加しましょう。



2014 (平成26) 年度

中・四国ブロック少年連盟 指導者研修会



山出久男先生

平成26年7月3日(木)～4日(金)に「中・四国ブロック少年連盟指導者研修会」が安芸教区の担当により、本願寺広島別院にて開催されました。遠近各地より66名の参加がありました。

1日目

の研修は、サンフレッチェ広島 普及部部长・アカデミーダイレクターの山出久男先生に「こどもたちへの望ましい接し方」との講題で講演いただきました。

講演の初めに先生が「色々なスポーツがありますが、子ども達の運動経験としての競技も大切です。そのためには、たくさんのスポーツとの出会いが肝心です」

このように話されました。これはスポーツに限らず、何事も始めるきっかけ「出会い」が大切であることを感じました。ひとつの出会いが、その子の将来に関わります。私たちも、未来に向けて可能性のお手伝いが出来れば嬉しく思います。

どのようなスポーツでも基本は体力作りからです。しかし、ただ走るだけでは感動も興味も得ることはできません。そこで、子ども達の喜ぶ「遊び」を取り入れることで、楽しみながら自然に体力作りの運動ができるように手助けをすることが大切なのだそうです。

最初はボールを使わず、飛んだり跳ねたりして遊びます。次にボールを入れると、子ども達は勝手に遊びを作り、子ども同士でボールを取り合います。ルール無しで遊ぶことを見守ります。そこで、みんながボールに触れ、蹴ることができるよう、複数のボールを入れます。次のステップでゴールを目指す本来のサッカーのルールを教えることになります。

サッカーのみならず子どもとスポーツをするには、大人は程よく手加減が必要ですが、好奇心を刺激するためにも本気のプレーもしっかり見せ、子どもと一緒に楽しむことが大切なのだそうです。

また、言葉で説明しても理解できないことが多いため「言葉で伝え」→「実際に見せて」→「子どもにやらせる」これが、子どもへの指導のポイントとなるそうです。

さらに、子どもと接する心掛けとして、体制を低くして視線を子どもに合わせることで、太陽の光りで子どもが眩しくならないよう指導者側から動いてあげることが大切だそうです。

実技では、鬼ごっこの「こおりおに」や「コーン倒しゲーム」で体を動かした後、サッカーボール3個と小さいサッカーゴールを4つ使ってミニサッカーなどをみんなで行的運動しました。



「お寺で簡単アウトドア体験」— 空き缶炊飯にチャレンジ —

気になるスポット探訪、今回は番外編として、お寺で簡単アウトドア体験—空き缶炊飯にチャレンジ—ということ、空き缶を使って飯ごう炊飯をしてみたいと思います。

350mlのアルミの空き缶を使って、1つは白ごはん、もう1つは松茸風味のインスタントのお吸い物の粉を入れた炊き込みごはんを作りました。

燃料にするのは、火がつきやすい牛乳パックや使用済の割り箸、木の枝や新聞紙などです。燃料に火をつけて30分間、火が消えないように燃料をくべながら、風を送ります。

もちろん火傷には十分注意が必要ですが、火を使ってものを作るという経験はとてもワクワクし、子どもたちにとって大切な経験でもあります。

30分経ったら、炊飯器を火から降ろし、蓋がはずれないように注意しながら逆さまにして約10分間蒸らします。10分後、上下を元に返しアルミホイルの蓋を取ったら、ふっくら炊き立てのごはんが出来上がりました。松茸風味の炊き込みごはんもおいしかったです。是非いろいろな味に挑戦してみてください。

毎日当たり前前に食べているごはんを、火を使って自分の手でお米から作るという経験や、空き缶でもご飯が炊けるという体験を通じて、ごはんの味も変わってくるのではないのでしょうか。キャンプ場などの施設にでかけなくても、気軽にできるアウトドア体験でした。



準備物 (1人1合分)

350mlのアルミ缶 (2本)、缶切り、カッターナイフ、はさみ、アルミホイル、軍手、お米1合 (約150~160g)、水 (180~190cc)、燃料 (牛乳パックを短冊に切ったもの、割りばし、木の枝、新聞紙など)、チャッカマンやライターなど、消火用の水

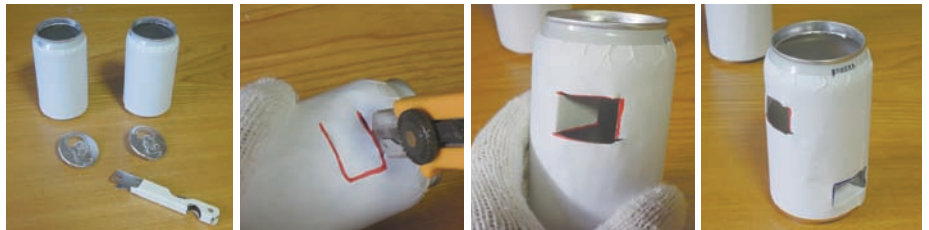


準備編 (怪我防止のため、この作業はあらかじめ指導者でやっておいてもいいでしょう)

1 空き缶の上部を缶切りで取り除きます。1つは炊飯用、1つはコンロとして使います。

※アルミ缶は食器洗剤等でよく洗って、沸騰したお湯をかけて煮沸消毒しましょう。
※上部を切り取ったあと、細かい金属粉が缶内部に落ちてしまうので、よく水洗いして金属粉を洗い流します。
※空き缶の切り口で怪我をしないよう注意しましょう。

2 コンロ用の空き缶にカッターナイフで切れ込みを入れます。空気の通り道と煙突・燃料をくべる窓を作ります。コの字型に切り込んで、缶の中側に折りこみます。穴がそれぞれ向かい合うように上部に2カ所、下部に2カ所、合計4カ所の穴を開けます。
※アルミ缶は滑りやすいのでカッターナイフは十分に注意して使いましょう。
※缶を折りこむ際、カットした切り口で指を切らないように注意しましょう。



炊飯編 (屋外の近くに燃えるものがない、平らな場所でやりましょう。消火用の水の準備も忘れずに)

1 350mlの空き缶で1合のお米が炊けます。水で磨いだお米と水を入れてアルミホイルでしっかり蓋をします。

※お米1に対して水1.2位が適量です。

※アルミホイルを二つに折って、炊飯器のふちに密着するようにフタをします。



2 燃料は、牛乳パックを短冊に切ったもの、割りばし、木の枝、新聞紙など何でも大丈夫です。牛乳パックは燃えやすいので、初めに牛乳パックに火をつけて、割りばしや木の枝に燃え移しました。

※牛乳パックは開いて1面を約1~1.5cmの幅で短冊状に切ります。

※新聞紙は適当な大きさ (1枚を1/8位) に切ったものを棒状に丸める (薪のような形) と長持ちします。

3 コンロ用の缶に燃料を入れて火をつけます。火がついたら、炎に気をつけながらお米が入った炊飯用の缶を上に乗せます。

炊飯用の缶
燃料を入れる窓
コンロ用の缶
空気を送る窓



4 火の勢いが弱くならないように、風を送りながら燃料をくべていきます。

※風を送るときには、顔を近づけると危険ですので、うちわや手などで行います。



5 缶の上下を逆さまにして約10分間蒸らします。
※缶は大変熱くなりますので火傷には十分注意してください。



6 上下を元に返し、蓋を取って出来上がり！おいしそうな湯気が上がります。
7 スプーンを使ってお皿に取りだします。缶の底のおこげが美味しいです！

